

国際協働学習プロジェクト 2015

「食」を通して考える持続可能な生活と社会



ホールスクールアプローチに向けた取り組み

■教員間での連携強化

- 学校長の積極的な支援のもと、教科横断的に取り組みが進められ、プロジェクト実施上の諸課題に対応することができました。

■学校外との連携強化

- これまでの教育活動では地域と関わることはありませんでしたが、ESD Food プロジェクトを機会に連携ができました。
- 地域の商業施設にインタビューを実施したことで、「食と経済」の問題点が明確になりました。学校や教室では「課題発見」には限界があることがわかりました。学校活動を今後も地域にも広げていきたいです。
- 地域の店舗インタビューを通して生徒の積極性が育まれました。インタビューの準備（アポイントメント取り）からやってみたいという意見もありました。
- 中学 2 年生を対象にした学校説明会では、家庭科の公開講座の中で、ESD Food プロジェクトについて生徒が説明しました。

ESD Food プロジェクトを通しての変化

■児童生徒の声

- 協働学習で問題の本質を知り、それについて良く考え、解決策を見つけることの大切さを学ぶことが出来ました。
- 国内だけでなく、海外に向けて調べる中で、私たちの生活がどうやって成り立っているか知ることができました。
- 社会人にインタビューすることで、現在の日本の課題が明確になり、視野が広がりました。
- 中学 2 年生に協働学習について伝えることは難しかったけれど、大変良い経験になりました。社会問題について主体的に取り組んでいきたいです。

■教員の声

- 課題を発見するのはインターネットの情報だけでなく、実際にさまざまな人と話をすることが効果的であることを学びました。
- 総合的な学習の時間に ESD とユネスコスクールを取り入れるよう、学習計画と年間計画を策定しました。
- 各教科で「協働学習」が進むよう、管理職を中心にさまざまな研修が実施されるようになりました。

■教員から見た児童生徒の変化

- 地域インタビューをきっかけに、自主的に行動しようとする態度が多く見られました。
- 学校説明会に来ていた中学 2 年生に生徒自らが ESD Food プロジェクトについて説明しました。発表の準備をする中で生徒たちは改めて課題発見やプロジェクトの意義について再認識をしたようです。

今後に向けて

- ESD Food プロジェクトを次年度以降も自主的に発展させていくために、管理職および担当教員間でプロジェクト実施上の課題と今後の取り組みについて検討を始めました。
- 生徒の主体的な学びを深めるためにカリキュラムの改善を行っており、ESD Food プロジェクトで展開された協働学習をどのように活用していくかを検討しています。

広島県立安古市高等学校

「食と経済」―「食」を通して考える持続可能な生活と社会



地域のスーパーマーケットを訪問し、経営者の視点を知る



■学校概要

創立 40 周年を迎えた安古市高等学校。2013 年にユネスコスクールに加盟しました。広島県が推進する「探求コ
アスクール」の指定を受け、生徒自身が現代社会における解決困難な諸課題に対して、問題点を明らかにし、他
者との協働によって、克服・解決する提案・行動ができるような教育活動に取り組んでいます。

■学校情報

学校代表：船津 久美
ESD Food プロジェクト担当教員：
煙井 成（公民科）、田中 裕美（家庭科）、新長 太（外国語科）
所在地 ：広島県広島市安佐南区毘沙門台三丁目 3 番 1 号
TEL ：082-879-4511 E-mail：yasufuruichi-h@hiroshima-c.ed.jp
Web サイト ：http://www.yasufuruichi-h.hiroshima-c.ed.jp/

■プロジェクト内容

大量生産・大量消費・大量廃棄をテーマに個人研究、店舗インタビュー実施し、生徒自身が「食品廃棄」の課
題に気付き、このトピックでプロジェクトを進めることになりました。課題解決に向けて、食品廃棄の原因につい
てアンケートを実施し、「賞味期限・消費期限が過ぎていれば捨てる」「余った食材は捨てる」という意見が多い
ことが分かり、今後はこの課題解決に向けて具体的にとるべき行動を明確にし、取り組んでいきます。プロジェク
トを通して、生徒の主体性の向上やコンピテンシーの育成も目指しています。

■プロジェクト参加者

対象学年 ：2 年生「家庭研究」を選択している 46
プロジェクトが実施された教科・科目など：家庭科

■学びのつながり

◇学校内での連携
教科間での連携：総合的な学習の時間、家庭科、情報科、外国語
◇学校外との連携：
地元の商業施設、Kuthuparamba High School インド)、生徒の保護者



■ESD Food プロジェクト活動ステップ

2015 年 9 月	STEP1：持続可能な開発に関するワークショップ （1）「2040 年の教育はどうなるか」 （2）「村民が幸せに暮らせる村の地図をつくろう」 「経済」「環境」「倫理・宗教」「社会」のバランスのとれ た発展が必要。生徒が考えた村民が幸せに暮らせる村	
10 月	STEP2：ESD Food プロジェクトで取り組むテーマに関する調査 ●「食と経済」について個人研究	
11 月	STEP3：コミュニティでのインタビュー調査 STEP4：調査分析と問題の抽出 ●地域のタイプの異なる商業施設でのインタビュー実施 A：大規模商業施設（全国展開） B：中規模商業施設（中国地方展開） C：地域特産店舗（地産地消型） D：小規模商業店舗（団地内） ●インドの学校、国内の他地域の学校との Skype、E-mail 等での情報共有開始	
12 月	STEP7：一連の活動内容の他者への共有 ●学校説明会に来ていた中学 2 年生に ESD Food プロジェクトの取り組みを報告	
2016 年 1 月	STEP5：問題解決に向けてとるべき行動の明確化 ●「食品廃棄」「食品ロス」の原因調査。課題解決に向けての行動を明確に。 STEP8：HOPE 枠組みを活用した活動評価実施 ●自己評価	